鉄骨造建築の着工件数

今年度、5年ぶり高水準へ

鉄骨造建築の着工件数が今年度、2008年度以来5年ぶりの高水準に達しそうだ。1物件当たり2千平方㍍未満がリーマン・ショック前の07年度に迫るほか、同平方㍍以上の大型も前年を上回る伸びで推移。同時並行で複数の案件に絡むファブも多く、関連工場では建設現場への納期管理やそれに伴う生産工程の調整で難しい舵取りが迫られている。

国土交通省の建築着工統計を基に13年4～11月の合計を年率換算したところ、鉄骨造の建築物は14万3750棟と10月までの半年に次ぎ08年度（14万2085棟）を超えた。2千平方㍍未満は単月で4カ月連続のプラスとなり、07年度の14万5800棟が射程に入る年率14万72棟に持ち直す一方、2千平方㍍以上も21％増と前年度より6％高い。

業界団体や鉄鋼メーカーなどの試算によると、今年度の鉄骨需要は09年度から遠のく500万㌧台が見込まれ、各種鉄骨ファブで生産能力に準じた高操業が続く。中小規模の案件が得意な中堅以下のファブは自社で抱える案件に大手の下請けが重複したり、母材の入荷や建設現場の工程が遅延したりするケースがあるなど工程管理の厳しさが増しているという。

鉄鋼新聞 1/10付